

# 野菜需給協議会幹事会の概要

平成 22 年 7 月 12 日に「野菜需給協議会幹事会」を持ち回りで開催しました。  
その概要は以下のとおりです。

## 1. 事務局による各幹事に対する説明

- ・ 夏はくさいについて、長野県で順調な生育により潤沢な入荷がある一方、主な用途であるはくさい漬けの需要が伸びていないため、価格が低迷し、緊急需給調整事業発動の基準となる価格を下回る傾向となっている。
- ・ こうした状況から、産地の長野県では、7月11日から市場隔離を開始し、本日7月12日から、産地廃棄を実施したいとしている。

## 2. 各幹事から出された意見

- ・ 生産者が厳しい状況にあることや、産地廃棄も理解できるが、基本的知識のない消費者にはとにかく安ければいいと思っている人達も少なくない。もったいない感を払拭するためにはもっと生産者の努力やアピールが必要。
- ・ 売れないのであれば、品目転換をすべきだし、需要を踏まえつつ、もっと計画性を出すべき。天候に左右され、想定外にできてしまうことも理解するが、他産業なら売れないものは作らないのではないか。
- ・ 生産者も作ったら終わりということではなく、余ったものを生産者もどのように活用するかも考えるべき。すぐには成果がでなくていいので、大学の農学部と連携するとか工夫すべきである。
- ・ 需給調整はやむを得ないと思うが、昨年につき需給調整が行われたこと、また夏場の需要が漬物加工用であり硬直的であることから、作り過ぎであると考えざるを得ない。
- ・ 主な需要であるはくさい漬けの消費がこの5年間に2割減る中で、夏はくさいの作付面積は昨年に比べ5%位しか減じておらず、もっと計画的な生産を行う必要があるのでないか。
- ・ 去年、需給調整を行ったところが同じ夏はくさいでまた需給調整を行う、というのはやはりどこかに問題があるのではないか。もっと、工夫があってしかるべきではないか。
- ・ 産地が行っている消費拡大については、一過性のPRでは効果に疑問。製造メーカーとタイアップするなら、先方の技術力を活用した新規用途開発など実効あるものにすべき。
- ・ 家庭料理のレシピ等を手掛けているフードスタイリストなどに、簡単な家庭料理の作り方を紹介してもらうのも野菜の消費拡大に繋がるのではないか。

## 3. 需給協議会としての対応

以上のような意見を踏まえ野菜需給協議会会員においては、別紙のような取り組みを行うこととした。

## 夏はくさいの需給調整に関する取組みについて

平成 22 年 7 月 12 日

野菜需給協議会

- 1 夏はくさいの需要のほとんどがつけもの加工用であり、つけもの需要が減少する中で、好天による各産地の順調な生育により出荷が増加していることから、最近の夏はくさいの卸売価格は、緊急需給調整事業発動の基準となる価格を下回る傾向となっている。
  
- 2 このような状況を踏まえ、野菜需給協議会の構成会員はそれぞれの立場から、
  - ① 夏はくさいは、用途が限定的で近年需要が減少してきていることを踏まえ、今後とも加工用・業務用の需要動向に対応した計画的な生産を行うこととする。
  - ② 野菜の需給動向等の周知や野菜の消費拡大活動について傘下の会員や団体に対して呼びかけることとする。